

先日、『パーキンソン病を治す本』という興味深い内容の本を見つけました。

一部抜粋より

この病気の発症・進行の背景には自律神経のバランスの乱れが存在し、薬に頼らなくても運動を含む生活療法、あるいは自律神経のバランスを整え血流を促す治療によって症状を改善し進行を食い止めることができる病気であるという事実を著者である医師が立証しています。

また、現代医療でもパーキンソン病克服には薬物療法とともに運動療法などの機能回復訓練が重要であるとの認識が高まっており、特に、後者にスポットを当てた内容です。また、第2章ではパーキンソン病治療の問題点をあぶり出し、どうすれば自分自身の力でパーキンソン病を克服できるかという基本的なポイントが紹介されています。

また、鍼治療の有効性の立証についても述べられています。  
手技療法を行う我々には、良い本でした。